

盛岡市出身の建築家「横濱 勉」設計による 日本洋風の建築遺構



盛岡出身の横濱勉の設計で、明治43年（1910）竣工。日本の洋風建築遺構には数少ないユーゲントシュティル（青春様式ドイツのアルヌーヴォ）様式の外観をもつ。煉瓦造2階建て（一部地下1階）に黄褐色の化粧煉瓦を落下防止対策の下駄歯積み（構造煉瓦を下駄の歯状に積む施工方法）になっている。屋根はスレートと銅板葺きのマンサード屋根にドーマー窓（換気口）、正面左側は高い塔状の屋根に避雷針が設けられている。水平に分節する花崗岩コーナーストに荒々しい割肌の花崗岩を積み、全体に中世的な優しさで威厳を持たせている。内部はセセッション様式の空間がシンブルにデザインされている。明治期の銀行建築は営業室を吹抜けとするのが主流だったが、この建物は2階に広い総会室（集會室）を設け、さまざまな集いに利用されてきた。平成14年（2002）に復元改修された。現在は「もりおか啄木・賢治青春館」として公開されている。

（もりけん本スーパerver.2より）

